

コムギ赤かび病防除適期の推定指標としての開花穂率の利用

古川農業試験場

1 取り上げた理由

コムギ赤かび病の薬剤防除体系の中で、コムギ品種「ゆきちから」における第1回目の防除適期はコムギの開花期であり、薬剤散布は開花期よりも遅れないようにすることが重要である（普及に移す技術第81号）。一連の試験において、開花期は開花小穂率30～50%と定義しているが、栽培現場での開花期の把握に、調査がより簡易な開花穂率を用いることの有効性が明らかとなったので参考資料とする。

2 参考資料

1) 開花期間の開花小穂率（x）と開花穂率（y）の間には以下に示す高い相関関係が認められ、開花小穂率約30～50%に相当する時期は、両品種に共通して開花穂率65～80%程度であることから、薬剤防除適期の把握には開花穂率を指標とすることが可能である（図1，2）。

ゆきちから : $y = 20.284 \ln(x) + 7.065$ ($R^2 = 0.9171$) (図1)

シラネコムギ : $y = 22.792 \ln(x) - 4.1541$ ($R^2 = 0.9642$) (図2)

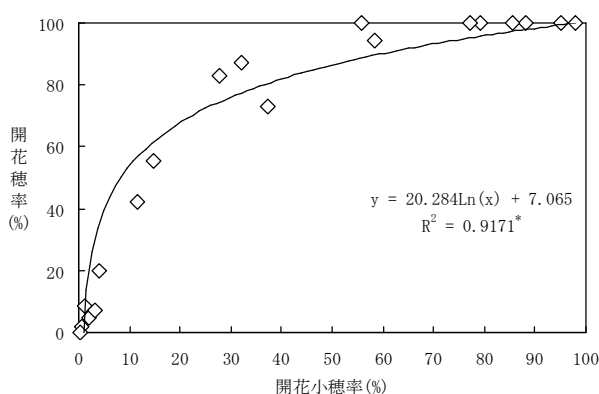


図1 コムギ品種「ゆきちから」における開花小穂率と開花穂率との関係

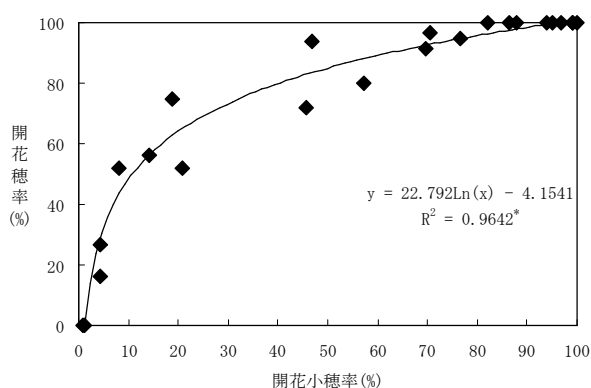


図2 コムギ品種「シラネコムギ」における開花小穂率と開花穂率との関係

3 利活用の留意点

- 1) 本結果は、平成17年から平成19年の場内試験の結果である。
- 2) 本試験では、1小穂でも開花した小穂がある穂を「開花穂」とした。
- 3) 開花期は、同時期の播種でも年次および品種により異なることから、圃場をよく観察することが重要である（図3）。
- 4) 開花期に確実な薬剤効果を得るため、薬剤防除時は開花始期～開花期とする。

(問い合わせ先：古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

ムギ類赤かび病回避のための防除技術の開発（平成16～20年度）

2) 参考データ

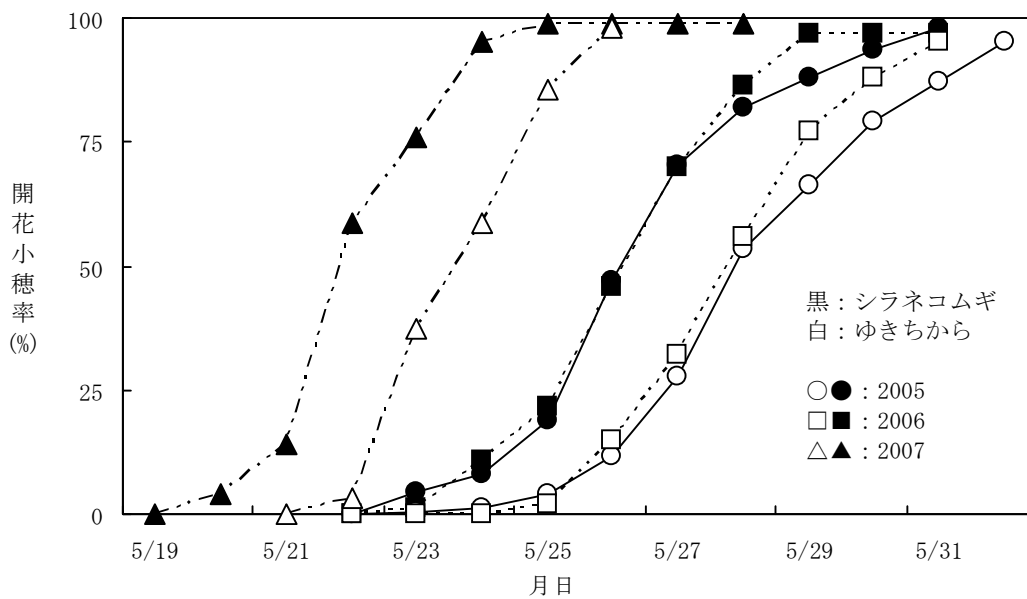


図3 コムギ2品種における開花小穂率の推移
縦バーは標準誤差を示す

3) 発表論文等

大場淳司・滝澤浩幸，宮城県における主要コムギ品種の出穂・開花の特徴と赤かび病防除，日本作物学会紀事（2007）76：100-101（講演要旨）